

第 1 学 年 【 国 語 科 】 学 習 指 導 案

日 時 平成 1 6 年 6 月 2 9 日 (火) 5 校 時
学 級 1 年 B 組 (男子 20 名 女子 18 名 計 38 名)
指 導 者 千 田 剛

1 単元名

二、自然の不思議をさぐる

文章の内容をとらえよう

海の中の声 クジラたちの音の世界 初めて知ったことを伝えよう

2 単元について

(1)教材観

本教材は、中学に入って最初の、科学的な事柄に関する文章を学ぶ教材である。ともに海の中の世界について書かれたものである。

二つの文章は、イルカとクジラという比較的良好によく知られ、好感をもって見られる動物を中心に、その不思議を語っている。どちらも内容は事実に基づき、実証的かつ論理的に語られている。イルカやクジラという魅力的な海の生物に、親しみと愛情をもって接しながらも、その基本に論理と科学的な思考があることが自然に伝わってくる文章である。

ここでの学習では、科学的・論理的な思考によって物事を理解していくことの意義に目を向けさせていきたい。

(2)生徒観

1年B組の生徒は、明るく意欲的な生徒が多い。論説・説明文教材への反応もよく、国語学習の音読や意味調べ、読み取りにも積極的に取り組んでいる。

しかし、自分の話を正しく相手に伝えたり、相手の話の内容を正確に聞き取る力については、まだ不足している生徒も多い。そこで、教材文を読み、そこに書かれている内容に興味・関心を持たせながら、自分の伝えたいことを順序立てて文章に書き表すことと、他の人の発表をよく聞き、内容を理解することについて支援していきたい。

(3)指導観

この単元では「自然の不思議」そのものを読むこと、「自然の不思議」のとらえ方を読むこと、自分なりにとらえた「自然の不思議」について発信することを学習の中心としたい。

しかし、自分の話を他の人に伝え、正しく理解してもらうことはたやすいことではない。

そこで、発信するための情報を集める際に、個の興味・関心に応じた情報収集をさせ、相手意識を持った文章としてまとめさせていく。

また、伝えたい相手にとって理解しやすい文にするため、材料を整え、分かりやすい構成を考え、表現の仕方を工夫していくなかで、自分の初めて知ったことを整理し、内容を客観的に見直しさせていきたい。

(4)家庭学習との連携

「教科書の読み」を課題として家庭学習に取り組ませた。「読み」自体も回を重ねるごとに上達していったが、さらに、読んでいく際に「意味の分からない語句」について調べてくる生

徒もいたため、その紹介をし、他の生徒へも勧めた。

「調べ学習」では、インターネットを使う時間を1時間しか設定しなかった。しかし、もっと調べたい部分については自分で調べてくるように話したところ、自宅でインターネットを使って調べてきた生徒や、昼休みに学校の図書館で調べたり、市立図書館まで行って関連する書籍をしらべようという意欲を見せる生徒もいた。これも、授業だけでなく、様々な調べ方、調べる場所があることと、意欲的に「調べ学習」をした生徒を紹介した。

3 単元の目標

【関心・意欲・態度】

- ・自然の不思議や海の生物たちについて、興味・関心を持って読み進めようとしている。
- ・集団による読みに合わせて大きな声で音読することができる。
- ・興味をもったことや初めて知ったことを、読み手の立場に立ってまとめようとしている。

【話す・聞く能力】

- ・自分の思いを相手に理解してもらえるように話すことができる。
- ・話し手の意図を考えながら、話の内容を聞き取ることができる。

【書く能力】

- ・相手を意識して、伝えたい事柄、自分の初めて知ったことを明確に文章にすることができる。
- ・書いた文章を読み直し、段落の分け方やつなぎ言葉の使い方などを確かめて、読む人にとって読みやすく、わかりやすい文章にすることができる。

【読む能力】

- ・文章の内容を短くまとめることができる。
- ・文章の展開に即して、まとまりごとに内容をとらえることができる。
- ・文章中の「問い」と「答え」を見つけ、要旨をとらえることができる。
- ・文章の展開や構成を正確に捉え、筆者のものの見方や考え方を理解することができる。

【言語についての知識・理解・技能】

- ・分からない語句や漢字について、国語辞典を使って意味や用法を整理している。
- ・語句の読みや意味を文脈の中で正確に捉え、理解することができる。
- ・わかりやすい文章にするために、段落の関係やつなぎ言葉の使い方に注意している。

4 単元の指導計画と評価規準

- ・「海の中の声」の読み取り...三時間
- ・「クジラたちの音の世界」の読み取り...三時間
- ・「初めて知ったことを伝えよう」...四時間（本時4 / 4時）

次	時	指導目標	関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語についての知識・理解
		・「海の中の声」を読み、自然の不思議について	・自然の不思議や海の生物たちについて		・教材文を読んで初めて知ったことをまとめ、	・文章を読み、内容的に正確に理	・分からない語句や漢字に

海 の 中 の 声	1	いて興味・関心を持ち、初めて知ったこととそ のことについての感想 を書き出す。	いて、興味・関心 を持って読み進め ようとしている。	そのことに対する自分 の感想を書くことがで きる。	解することがで きる。	について、国語 辞典を使って 意味や用法を 整理している。
	2	・「海の中の声」を集団 で声を合わせて音読し、 文章のまとめごと に内容をとらえることが できる。	・集団による読み に合わせて大きな 声で音読すること ができる。			・語句の読み や意味を文脈 の中で正確に 捉え、理解す ることができる。
	3	・「海の中の声」を文 章のまとめごとに内 容をとらえ、自然の不 思議について興味・関 心を持つことができる。	・集団による読み に合わせて大きな 声で音読すること ができる。		・文章の展開に 即して、まとめ ごとに内容を とらえることが できる。	
ク ジ ラ た ち の 声 の 世 界	4	・「クジラたちの音の 世界」を読み、自然の 不思議について興味・ 関心を持ち、初めて知 ったことに印を付ける ことができる。	・自然の不思議や 海の生物たちにつ いて、興味・関心 を持って読み進め ようとしている。			・分からない 語句や漢字に ついて、国語 辞典を使って 意味や用法を 整理している。
	5	・「クジラたちの音の世 界」を集団で声を合わせ て音読し、文章の展開 や構成を正確にとらえ ることができる。	・集団による読み に合わせて大きな 声で音読すること ができる。		・文章中の「問 い」と「答え」を 見つけ、要旨を とらえることが できる。	・語句の読み や意味を文脈 の中で正確に 捉え、理解す ることができる。
	6	・「クジラたちの音の世 界」を読み、文章の展開 や構成を正確にとらえ、 筆者の論理の組み立て を理解して、要旨をま とめることができる。	・集団による読み に合わせて大きな 声で音読すること ができる。	・文章の内容を短くま とめることができる。	・文章の展開や 構成を正確に捉 え、筆者のもの の見方や考え方 を理解すること ができる。	
初 め て 知 っ た	7	・自然の不思議について さらに興味・関心を持 ち、次の調べ学習へ向 けた自分の課題を設定 することができる。	・自然の不思議につ いてさらに興味・ 関心を持ち、次の 調べ学習へ向けた 自分の課題を設定 することができる。		・教科書の二つ の文章から考え を広げ、自分で 調べたいことを 考えることがで きる。	
	8	・自分の興味・関心に合 わせて調べ学習を進め ることができる。	・自分の興味・関心 に合わせて調べ学 習をできる。	・自分の調べたことをメ モできる。		

こ と を 伝 え よ う う 4	・書く材料を集め、相手を考えて伝える事柄を整理し、文章にまとめることができる。	・興味をもったことや初めて知ったことを、読み手の立場に立ってまとめようとしている。	・相手を意識して、伝えたい事柄、初めて知ったことを明確に文章にすることができる。 ・書いた文章を読み直し、段落の分け方やつなぎ言葉の使い方などを確かめて、読む人にとって読みやすく、わかりやすい文章にすることができる。	・わかりやすい文章にするため、段落の関係やつなぎ言葉の使い方に注意している。
10 本 時	・初めて知ったことを伝えあう。	・大きな声でまわりと合わせながらまとめの音読することができる。	・自分の思いを相手に理解してもらえるように話すことができる。 ・話し手の意図を考えながら、話の内容を聞き取ることができる。	

5 本時の指導

(1) 目標

大きな声で、まわりと合わせながら音読することができる。(関心・意欲・態度)

自分の思いを相手に理解してもらえるように話すことができる。(話す能力)

話し手の意図を考えながら、話の内容を聞き取ることができる。(聞く能力)

(2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

具体的評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手だて
評価の観点 大きな声で、まわりと合わせながら音読することができる。(関心・意欲・態度)	・内容や大切な部分を考えながら、音読を工夫しようとしている。	・進んで音読に取り組み、大きな声でまわりと合わせて、単元のまとめの音読をしている。	・良い読み方の手本を示したり、家庭学習の成果等を紹介したりして、音読への意欲を喚起する。
前事に書いた作文をもとに、初めて知ったことが相手に伝わるように話している。(話す能力)	・自分の思いが相手に伝わるように、話し方を工夫して話している。	・大きな声で、はっきりと話している。	・班の話し合いに参加し、話せるような雰囲気を作ったり、良い話し方の手本を示したりする。
初めて知ったことは何であるかに注意して聞いている。(聞く能力)	・話し手の初めて知ったことへの思い等も聞き取るようしている。	・話し手が初めて知ったことを聞き取っている。	・相互評価のプリントに記入する観点を再度確認し、聞き手の目標を意識させるようにする。

